

## 聞 ・ 聞 ・ 聞

発行責任者 浄土真宗本願寺派 正善寺 住職 酒井光義 平成27年3月9日

〒802-0045 北九州市小倉北区神岳二丁目10番31号 電話093(541)2409番

## 出遇わずにはおれないのち 無上尊

『大無量寿経』というお経に、「世において無上尊となるべし」という言葉が説かれます。「無上尊」とは「この上なく尊い」ということです。この言葉は、仏さまといわれるいのちの本当の姿に目覚めた人が、「この世に生を受ける時、誰もがあげる産声」がもつ深い意味を明らかにしてくださっている言葉です。人と生まれる、そのいのちとは、「この上なく尊い」「無上尊」と見出されるべきいのちであるということです。

しかし、そう言われましても、わたしたちには、「誰もがあげる産声」ということと「この上なく尊い」ということを結びつけるのは無理があるのではないかという疑問がおこるのではないのでしょうか。わたしたちは、比べて優劣を計る心がいつもはたらいていますから、「この上なく尊い」といわれると、「きわめて少数の、抜きんでてすぐれたもの」を思い描きます。例えば、ここに百人の人がいるとして、「この上なく尊い」と言える人は何人かと問われると、「この上なくというのだからひとりだけだろう」とまず考えます。「しかし、テストの満点がひとりとは限らないし、スポーツでも一着が同タイムということもあるし、それにしても、まあ百人中ほんの一握りだろう」と考えます。それが、わたしたちの普通の考え方です。ですから、「誰もがあげる産声」ということと「この上なく尊い」ということとは結びつかない考えるわけです。けれども、そんなわたしたちの日ごろの心から解き放たれたような言葉に出遇うことがあります。

ある大人の人が、言葉がようやくしっかり言えるようになった子どもに尋ねました。「あなたはお父さんとお母さんと、どちらの方が大好きなの」。お父さんお母さんと、比べてどちらのほうが大好きか、という質問です。子どもは答えました。「お父さん大好き。お母さん大好き」。問いとは異質の答えです。「お父さんはお父さんであることにおいて、比べることを超えて大好き。お母さんはお母さんであることにおいて、比べることを超えて大好き」、こう答えているのです。

誰もが知っている「チューリップ」という童謡に、「どの花見てもきれいだな」という一節があります。わたしたちは、比べて優劣をつける世界しか見えなくなっていますから、例えば「赤はとっててもきれいだ」というと、次には「白はまあまあきれいだ」といい、そして「黄色はたいしたことはない」という、そういう世界に生きています。しかし、この歌は、「どの花見てもきれいだな」と歌っています。

仏さまといわれる、いのちの本当の姿に目覚めた人は、世界の見え方がわたしたちとは違うのです。そういうことであらためて「無上尊」という言葉を尋ねますと、「この上なく尊い」とは、比べて尊いということではないのです。「この上なく尊い」とは、比べることを超えて尊いということなのです。代理がきかない、かけがえのない、そして遇いがたい、「わたし」として生まれてきたいのち。「世において無上尊となるべし」とは、「あなたはあなたであることにおいて尊い」という世界を語られた言葉なのでしょう。「大無量寿経」では、百人の人がいると百人が無上尊の命だと見出しているのでありましょう。

仏さまの言葉は、人間にとって光という意味をもちます。光に出遇って初めて、わたしたちが、いつも自分の思いで比べて優劣を計って、それにとらわれて、狭苦しい世界に生きているということが照らし出されます。仏さまの言葉に出遇う、仏さまの言葉を聞いていくということは、いのちの本当の姿を教えられ、そして、親鸞聖人が「凡夫というは、無明煩惱われらがみにみちみちて」といわれるような、自らの姿を言い当てられていくということでありましょう。

## 伝灯奉告法要についての消息

去る平成26年6月6日、前門主の跡を承けて法統を継承し、本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門主として務めてまいりました。ここに法統継承を仏祖の御前に奉告いたしますとともに、あわせて本願念仏のご法義の隆盛と宗門の充実発展とを期して、平成28年および29年に、伝灯奉告法要をお勤めすることになりました。

阿弥陀如来のご本願は、あらゆる存在を分け隔てなくそのまま救おうとはたらきかけてくださいます。迷いと苦悩をかかえる私たちは、阿弥陀如来のお慈悲ひとすじにこの身を任せ、真実のさとの世界であるお浄土に生まれていくべき身にならせていただきます。宗祖親鸞聖人が「そらごとたわごと」とお示しくくださった私たち自身を含む迷いの世界は、何一つとしてたよりになるものはありませんが、ご本願のはたらきの中に生きる私たちは、確かな依りどころを持つことができます。

科学技術の発達による便利で豊かな生活の追求や欲望の肥大化はとどまることを知りませんが、人々は、そのような豊かさのみを追求することの虚しさに気づきはじめたのではないのでしょうか。しかも、核家族化・人口の流動化などによって社会構造は大きく変化し、人間関係は希薄となり新たな悩みや不安を生み出しています。さらに世界に眼を移せば、武力紛争、経済格差、気候変動、核物質の拡散など、人類の生存に関わる課題が露呈しています。これらの傾向は今後一層強くなっていくことと思います。

私たちは、凡愚のまま扱め取って捨てないとはたらき続けてくださる阿弥陀如来のお慈悲を聞信させていただき、その有り難さ尊さを一人でも多くの方に伝えることが大切です。それとともに仏智に教え導かれて生きる念仏者として、山積する現代社会の多くの課題に積極的に取り組んでいく必要があります。まさにこのような営みの先にこそ、「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」道が拓かれていくのでありましょう。

このたびのご法要が、親鸞聖人によって明らかにされた阿弥陀如来の救いのはたらきに依りながら、時代の変化に対応する宗門の新たな第一歩として意義を持つものでありたいと思います。宗門では、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年に向けて新たな長期計画が策定されます。皆様のご積極的なご協力をご参画を心から願いたします。

平成二十七年（二〇一五年） 一月十六日

龍谷門主 釋 専 如

## 年末あれこれトピックス！！



久しぶりに門司『ぶぜん』へ！

美人全員での美ハーモニー

お迎えあり 見送りありの忘年会 料理もお酒もカラオケも とてもベリーグットでした。二次会も盛り上がりました。まだおみえでない方、ぜひともご参加ください。今年の年末、お待ちしております。



### 除夜会・修正会

たくさんのお参りありがとうございました。今年もどうぞよろしくお祈いたします。



除夜会は一年最後の「正信偈」をお勤め 修正会は「十二礼」をお勤めしています。

# ご 案 内

とき 平成 27 年 3 月 19 日 より 20 日 まで

## 春 季 彼 岸 法 要

	19日(木)	20日(金)
昼 席	午後1時30分	午後1時30分

講 師 ( 熊本市 良覚寺)

本願寺派布教使 吉村隆真 師

どうぞお誘いあわせのうえお参り下さい。

3月16日(月)法要準備会

10:00より14:00まで

彼岸法要の準備、納骨堂の清掃等を行います。

お手伝いをお願い致します。

昼食用意しています。

位 牌 会

昨年に引き続き、26年12月、お預かりした古い位牌や仏具、葬儀での位牌等、最後のお勤めを勤修後、無事焼却させてい

ただきました。お仏壇の中、古い掛け軸・他宗教の処分すべきものありましたら、一緒に整理致しましょう。次回の位牌会の際にお持ちください。

## 三女 聖子 成人式

おかげさまで成人式を迎えました。

正善寺の阿弥陀様に無事ご報告させていただきました。これで家族全員大人の仲間入り。引き続きご指導の程よろしくお願い致します。



## 行事ご案内【如来大悲の恩徳は 身を粉にしても報ずべし】

4月8日は「お釈迦様の誕生日」みんなでお祝いしましょう

## 花まつり・甘茶接待

【日 時】 4月8日(水)午前11時より午後1時まで【会 場】 正善寺・神岳保育園玄関前  
同日 午後 2 時より 4 時頃 小倉仏教会主催 且過丸和前にて開催

## 初参式

(しょさんしき)

正善寺本堂にて

【と き】 5 月 31 日 (日) 午前 11 時 開 始

小さいお子様がお寺の仏様の前で初めてのお参りをする儀式です。最近生まれたお子様はぜひ参加しましょう。家族でおいで下さい。お待ちしております。

## 次回の法要のご案内 永代経法要

【と き】 5 月 30 日 (土) 昼席・5 月 31 日 (日) 昼席 (昼席2日間)

【講 師】 当山 正善寺 住職 酒井光義

## 編集後記

木々の新芽の息吹を感じる春が来ました。三月、春、お寺の保育園では年長さんの子どもたちを送り出す卒園の季節です。長い間通ってくれた子どもたちとお別れはさみしいですが、成長の糧を

ともに喜ばせていただけたというたくさんの幸せの想いもあります。働くお父さんお母さんからお預かりしてお育てに関わらせていただきました。大切なおあずかりもの、どれだけのことをしてあげられたかはわかりませんが、豊かな心が育っていてくれたらいいなと願います。「おあずかりもの」よく考えてみると人生はすべておあずかりものだとおもいます。とくに私のように代々続くものを受け継いでいると、受け継いだ今を生かさせていただいているのだとおもいます。何一つわたしのものと誇示するものはないのです。お寺に嫁いで色々な新しいことを始めました。つくりました。今も『次はあんなこともこんなこともしてみたい』と思っはいますが、そういう想いもすべて、私の命に今、与えてもらっているものだと思います。「過去無量のいのちのバトンを受けついで、いまここに自分の番をいきている。それがあなたのいのちです。それがわたしのいのちです」人生の中での「おあずかりもの」大切に大切にしなければ、そう思います。春のお彼岸、園児の描いたあたたかい仏さまの絵と春のたくさんのお花の中で勤めさせていただきます。どうぞお参り下さいませ。

合 掌